

港北の消防

第61号

令和元年10月1日
編集
横浜市港北消防団
(港北消防署内)

港北消防団 夏季訓練会によせて

日吉町自治会会長
片野 芳昭

年号が改まった令和元年度の港北消防団夏季訓練会は、近年稀に見る猛暑となつてしましました。厳しい暑さの中での消防団員の活動には感銘を受けました。タイムと節度を競う各分団対抗のポンプ操法訓練は、放水の基本なのだと思います。

次に行われた女性消防団員による礼式訓練は、一糸乱れぬ規律の中で互いの心を通じ合うためには不可欠と思われました。女性団員は、日頃から区内の中学生を対象に救命講習やAEDの取り扱いの指導を行っていること聞き及びました。



また、資機材取扱訓練では、チェーンソー、エンジンカッター、油圧切断機、バルーン照明等が、近い将来に必ず起こる大規模な震災に備えてのことであり、と思いましたが、この様な機材を常備していたとは、ある意味驚きでした。最後の一斉放水は圧巻で、暑さの中に一瞬の涼を与えて頂きました。



おしまいに、久我所長からは「このように地域の方々に参加していただけることはありがたく大切。今日学んだことを忘れないように。」との総括の言葉あり、その後、試運転はしめくくられました。天候にも恵まれ、防火に対する有意義な体験と意識付けが叶った一日でした。

初期消火器具の試運転

鳥山町自治会 石川 綾乃

平成最後の日曜日となった四月二十八日、鳥山町公民館において、初期消火器具(スランドパイプ)の試運転が行われました。小机消防出張所の久我所長をはじめ、第一分団第二班、女性消防団員、自治会役員、近隣住民、小学生やそのお母さんの姿もあり、計三十四名が参加しました。

鳥山町の山側の住宅密集地は、道幅もせまく、消防車が入りづらいといった問題があり、そういった場所での初期消火を効果的に行う目的で、スランドパイプを購入しました。使い方を広く知ってもらおうと、この日は三グループに分かれ、ローテーションしながら、消防団員の指導の元、訓練が進められました。

「ホースのジョイントはカチッとつまんで差し込んで」「マンホールのフタは重いので、足をはさまれないように」「ホースを持つ手は、しっかりと腰の位置で固定する」といった指導がありました。足をふんばってホースをにぎる男の子の姿や、右手を大きく挙げ「放水始め」と合図を送る年輩男性の姿がみられました。

第二分団 夏季訓練会に参加して

第二分団 第五班 堀内 一秀

今年の第二分団の夏季訓練会は、六月二日菊名池公園のプールサイドで行われました。梅雨入り前だというのに梅雨明けを思わせる天気ではありましたが、港北消防署長をはじめ、地域の自治会や防災関係者の皆様に訓練の成果をご披露できたと思います。

訓練会の内容は、例年どおりの歩調や訓練礼式、小型ポンプ操法、ロープ結索、資機材展示などがありました。また新たな取り組みとして、水害時を想定したゴムボートによる救助訓練がありました。この訓練では、ゴムボートにロープを付けて三名の漕手が要救助者のもとに向かいます。対岸に着くと一名がボートを固定している間に他の一名がボートについていたロープを柱などに固定し、もう一名が要救助者に救命胴衣を着用させボートへと誘導します。その間、ロープの反対側も固定し、ボートは固定されたロープを利用して安全な場所に戻ります。当日は特に問題なく訓練を終了することができました。



今回は静水でボートは事前に用意済みでしたが、例えば流水であれば漕手にさらなる技術が要求されたり、ゴムボートをふくらませるところから始めるさらには時間がかかることなどが、今後の課題であると思われました。今回は初めての試みであり、課題が明らかになったことも成果であったと思います。水害に限らず、援護が必要な方の避難誘導など、様々な課題に取り組んでいくことで、地域の方々に信頼していただける消防団を目指すと思いをします。

消防団活動

第三分団 第三班 副班長 宮森 毅一

消防団に入団したきっかけは東日本大震災でした。当時は寝たがりの親の介護をしており、発災後、急いで三十キロを徒歩で帰宅した記憶があります。介護が落ち着いたので消防団に入団し今に至っています。



消防団の活動は、訓練や地域活動への協力など様々です。訓練は、消防団員の所作である訓練礼式にはじまり、配置されている資機材の取扱も、訓練を重ねるたびに身につけていきます。資機材取扱技術の向上とならんで大切なのは安全への配慮を身につけること。危険予知するうえでもとても大切です。消防団ならではの、といえるのが放水訓練です。小型ポンプ操法訓練では、消火活動の一連の流れをトータルで身につけられます。選手と支援者、それぞれが仕事を終えた後集まって行うこの訓練の様子は、「大人の夜の部活動」とも言え、仲間との連帯感が高まる楽しい消防団活動の一つです。消防署との連携訓練も積極的に取り組んでいて、大規模災害時に消防団が先着して活動する想定や、公設消防車を活用した放水など、様々な訓練を行っています。一度体験しておけば、大規模災害時慌てないで連携活動が行えると思えます。「私にはできない。」など感じるかもしれませんが、ここ数年、私を含めサラリーマン団員が増えており、仕事への支障がないよう配慮しながら訓練等を行っています。私の班には、大学生団員もいて、学業に支障のない範囲で活動に参加してもらっており、また多くの女性団員も活躍しています。地域に目を向けると、地域防災拠点訓練などを通じて地域と消防団は連絡を密にしており、協力体制もより強くなっています。発災に的確に対応するため、地域の方も資機材の取扱いや避難所開設も習熟されています。いつ起きるかわからない大規模災害に的確に対応するため、今後も地域、消防団、消防署との連携を大切にしていきたいです。

上級救命講習に参加して

第四分団 部長 吉原 荘二郎

去る五月十八日に横浜市市民防災センターで行われた、「令和元年度上期上級救命講習」に参加しました。私自身は、約三年ぶりの参加で、第八分団の皆さんを中心とした講師陣の丁寧で情熱的な指導のもと、基本的な「応急手当の基礎知識」「救命処置」「搬送法」「止血法」「三角巾の取扱い」をおさらいするとともに、「二〇一五年ガイドラインの変更点について詳細に学びました。私自身も忘れがちな三角巾の取扱いや傷病者の搬送方法について、いま一度学ぶことができました。また、迅速に開始することが求められる胸骨圧迫までの手順を再確認することも、変更となった胸骨圧迫のテンポについて体得することができ、自信につながりました。やもすると、救急法の指導は第八分団に任せきりなのが実態であるように思います。今回の講習で学びなおしたこと、指導員から受け取った思い、得られた自信を活かして、自習に積極的に参画していきたいと思えます。

講習が終了し帰宅する際に、防災センター脇の沢渡中央公園で元気に遊ぶ子どもたちや、横浜駅にいる多くの市民の皆さんを見て、市民を守る消防団員としての決意を新たにし、今日学んだことをいっでも実践し、市民の安全・安心に少しでも貢献できるように、研鑽を重ねていこうと思えました。印象に残る充実した一日を過ごすことができました。



港北消防団第五分団 夏季訓練会

第五分団 分団長 森 茂

前日の雨でグラウンドコンディションが悪く急遽体育館での開催となった第五分団の夏季訓練会。団本部、中原消防団、日吉地区の自治会町内会の方々をお招きしての訓練会は、今年度で定年退団となる小生にとつて最後となった。



分列行進から拳式隊形に整列、開会式での団長の訓示は一層心に染み入る。訓練は副分団長の指揮で開会式の隊形から片手間隔に開き、礼式訓練、ロープ結索訓練と続いて隊列を解き、震災対応訓練に移行する。女性団員が巡回中倒壊建物から負傷者一名を発見、仮救護所に搬送して三角巾で応急手当をして病院に搬送後火災発生、二隊が消火、倒壊家屋から心配停止の要救助者を発見、応援を要請し三隊が出場、チェーンソーで障害物を撤去して、担架にて仮救護所に搬送する。女性団員が胸骨圧迫を行い、AED使用により意識が回復し病院に搬送した。閉会式では安江消防署長から講評を頂き閉会となった。今年度内の消防団の行事が小生にとつて最後になる。三十六年間の活動が脳裏にうかび、達成感と一抹の寂しさを覚える。

ポンプ操法を経験して

第六分団 第三班 宮田 義則

令和元年、新しい時代になって初めての港北消防団夏季訓練会が、八月四日(日)、交通局新羽車両基地で行われました。私は、第六分団第三班の小型ポンプ操法の選手として参加しました。三番員の選手になったことは五年ほど前から決まっていたので、ついにこの時が来たかという気持ちでした。四月中旬頃から週一回、日中の仕事を終えた後、訓練に励んでいきました。選手全員が揃わない時もあり、また蒸し暑いなかでの厳しい練習でもありましたが、真剣に集中して取り組みました。六分団本部の方々、坂詰高田出張所長、そして各支援班の方々のご指導、ご支援いただいたことがとても心強く、大変感謝しております。梅雨時にも関わらず練習日は一度も雨に降られる事がなかったのも幸運でした。そして選手全員怪我をすることも無く、無事本番に挑むことができました。



訓練会当日は、基本動作を重視して慌てず正確に、できる範囲で無理せず訓練の成果を発揮しよう、と話し合いました。結果は第四位という事で少々悔いは残るものの、充分満足の内容でした。選手全員が互いに協力し合い支えあい、班全体がひとつになって目標に向かって努力するといった、とても充実した貴重な体験ができた事に大変嬉しく思います。もし、また選手として参加する機会があれば入賞目指して頑張りたいと思います。

令和元年の小型ポンプ操法

第七分団 第三班 副班長 西山 誠二郎

平成から令和に変わった本年、港北消防団夏季訓練会の小型ポンプ操法において第七分団の代表として出場し、また十一月十六日に横浜市消防訓練センターで行われる横浜市消防操法技術訓練会に港北消防団を代表して出場をさせて頂きました。その中で、私は指揮者という大役を任命され、我が班の、私を除く3名の新人で構成いたしました。まだ肌寒い三月より器具置場前において礼式訓練からスタートし、四月より、新羽・大熊農業専用地区道路において橋本新羽出張所長・中山訓練部長のご指導の下、訓練を重ねてまいりました。訓練中、選手の中で膝の故障や通風に悩まされながら、第三班全員が一致団結して訓練に励み、いよいよ、港北消防団夏季訓練会において、酷暑の中、ポンプ操法で一番目に出場しました。

結果は、思いもよらないハプニングで六位という結果に終わってしまいましたが、この日の結果から、どこが不足していたのか、どんな事が必要だったのかが見えてきた様になっています。この課題を克服し、十一月の横浜市消防操法技術訓練会に向けて、また新たな気持ちでより一層訓練に励んで行こうと今強く感じています。



第八分団視察研修

第八分団 第一班 班長 高山 紀子

夏季訓練会も終わり、毎年恒例のバス研修に行ってきました。今年は鶴見水上消防出張所にて、今年、横浜市で新たに発隊した「水上消防救助隊」を見学させて頂きました。日本でも有数の放水力を誇る消防艇「よこほま」に乗船し、爽やかな潮風を受けながら、横浜港内を一周し、沿岸部を視察しました。ちなみに、この消防艇の放水量は、毎分五万リットル(六十五ミリホース筒先二百本分)で、近隣都市の大規模火災にも活躍されているそうです。また、座学では、海上防災に関する貴重な話も聞くことができました。次に、年間全市で八名しか受からないという厳しい潜水科に受かったレスキューの方々による本番さながらの潜水救助訓練を見せて頂き、まるで【海猿】を見ているようで感動し、また拍手喝采でした。

【海猿】を見ているようで感動し、また拍手喝采でした。ランチには、いちご狩りもできる東京ストロベリーパークで、イタリアンビュッフェを頂き、お腹一杯になったところで、お隣のJERRA(旧東京電力)横浜火力発電所にて、広い構内を説明を受けながら発電行程を見学し、高さ二百メートルのツインタワーにも上り体力向上にもなりました。



編集後記

日頃から「港北の消防」を支援していただき、誠にありがとうございます。急遽、前任の故池田副分団長の後を継ぐことになり、心の準備が無く編集委員となりました。編集活動などの経験はありませんが、他の編集委員、消防署員、周囲の皆様等のご指導の下、分かりやすく、読みやすい紙面を作りたいと思います。異常気象や自然災害が多く発生する昨今です。消防団には地域の皆様方の期待が大きくなっています。年々団員数が減っています。この現状に、この「港北の消防」が少しでも役に立てれば幸いです。今後も活動報告、ご意見、写真等のご提供をよろしくお願い申し上げます。(田辺)

第二十一期編集委員

Table listing the 21st period editing committee members, including names like 加藤修, 長瀬進, 村田庸明, etc.

港北区内の火災情報

令和元年9月15日現在

Table showing fire incident statistics for the port north area, including categories like building, vehicle, boat, etc., and counts for the current year and previous year.

主な出火原因

Table showing the main causes of fire incidents, such as '放火' (arson), 'たばこ' (cigarettes), 'こじんろ' (stoves), etc.

Advertisement for Yokohama Fire Corps recruitment, featuring a fire truck, QR code, and text: '私の街 君の未来 私が守る' and '消防団員募集中'.